

20240515

人新世絶滅対処デザイン構築は可能か

糸長浩司

NPO法人エコロジー・アーキスケープ 理事長

飯豊町立いいで農村未来研究所 所長

飯舘村放射能エコロジー研究会 共同世話人

水俣の歴史的遺構（跡）を残す会アドバイザー

日本建築学会 原発長期災害復興再生のあり方特別研究委員長

環境雑誌『BIOCITY』総監修人

元日本大学生物資源科学部教授

地球がおかしい。世界がおかしい。人類の今までの進化論を疑う。

西洋的世界（自然も人も、人が支配する世界）の崩壊

人間を取り巻く全ての環境の危機世紀。

市場原理主義は虚の博打経済として破綻し実体の経済社会を破壊した。

自然破壊、生物の多様性の減少、

地球温暖化/異常気象、

水・土・大気の汚染、重金属化学物質の大量採取破棄、

食料・エネルギー・水の奪い合い、

ピークオイル、原発事故による長期的放射能汚染

富の独占、戦争、飢餓貧困、

人心・思いやり・コミュニティの崩壊

人類の絶滅？ 生き物の絶滅？

★今までの主流な世界の作り方が間違い、破滅する前に、別の多様な世界を作ることができる。かつての多様な世界を再評価。西洋的人類史（社会進化論）見直し（『万物の黎明』（2人のデヴィッド著））

キーワード

人新世、絶滅、デザインの責任、人類圏、技術圏、近代都市終焉、ポストヒューマン
地域自立共生、自律（立）分散自給デザイン、レンマ、容中律、不生不滅、
多元的復興、非サステナブル→サステインデザイン、存在論的デザイン

1. 二元論による地球（自然）と人間の関係性の非持続性の暴露
2. 地球気候戦争
3. 脱炭素に逆行する都市再開発の異常／熱波渦中での都市再開発
4. 気候と生物多様性の多重危機
5. ヒトは微生物でできている
6. 人為が産み出したハイパーオブジェクトと向き合いつづける責任と覚悟
（原発事故・放射能汚染／水俣病・有機水銀）
7. プラネットアースは、「ポストヒューマン／人類絶命」を
許してはくれない
8. 技術圏に深く関係する建築学（技術学）の責任と覚悟
9. SDGsからSEGsへ
10. 地域からの自立共生による真っ当な対処
11. 非二元的デザインの可能性／西洋モデルの廃棄→多元モデルへ
12. 災害を好機と捉えた多元的再生復興／近代復興モデルからの離脱

人新世の時代＝

- ①二元論による地球（自然）と人間の関係性の非持続性の暴露、開発言説の終焉、西洋的世界の崩壊
- ②ロゴス的世界の終焉（同一律・矛盾律・排中律）



トランジションの方向

- ①多元世界に向けたデザイン

（Designs for the Pluriverse）

多くの世界が収まる一つの世界（ガチスタ民族解放軍）

非二元論によるデザインの可能性

アルトオーロ・エスコバル

- ②「レンマ的論理」＝

「直観によるまるごと把握」、容中律、縁起

山内得立

生き残り？
公平・分配
社会経済変革

貧富拡大
南北格差
智の西洋化
都市スラム

人間の世界
自然概念の創造
科学技術対象としての
地球

人類非常事態

地球との関係性の
再発見・再創造

生態系破壊
自然の物質代謝の亀裂
パンデミック
生態系サービス限界
温暖化・海面上昇
気候非常事態
台風・豪雨・洪水

やりたい放題
無限の開発
無限の欲望
無限の収奪
科学技術の暴走
巨大都市
資本の加速暴走
人新世
資本新生

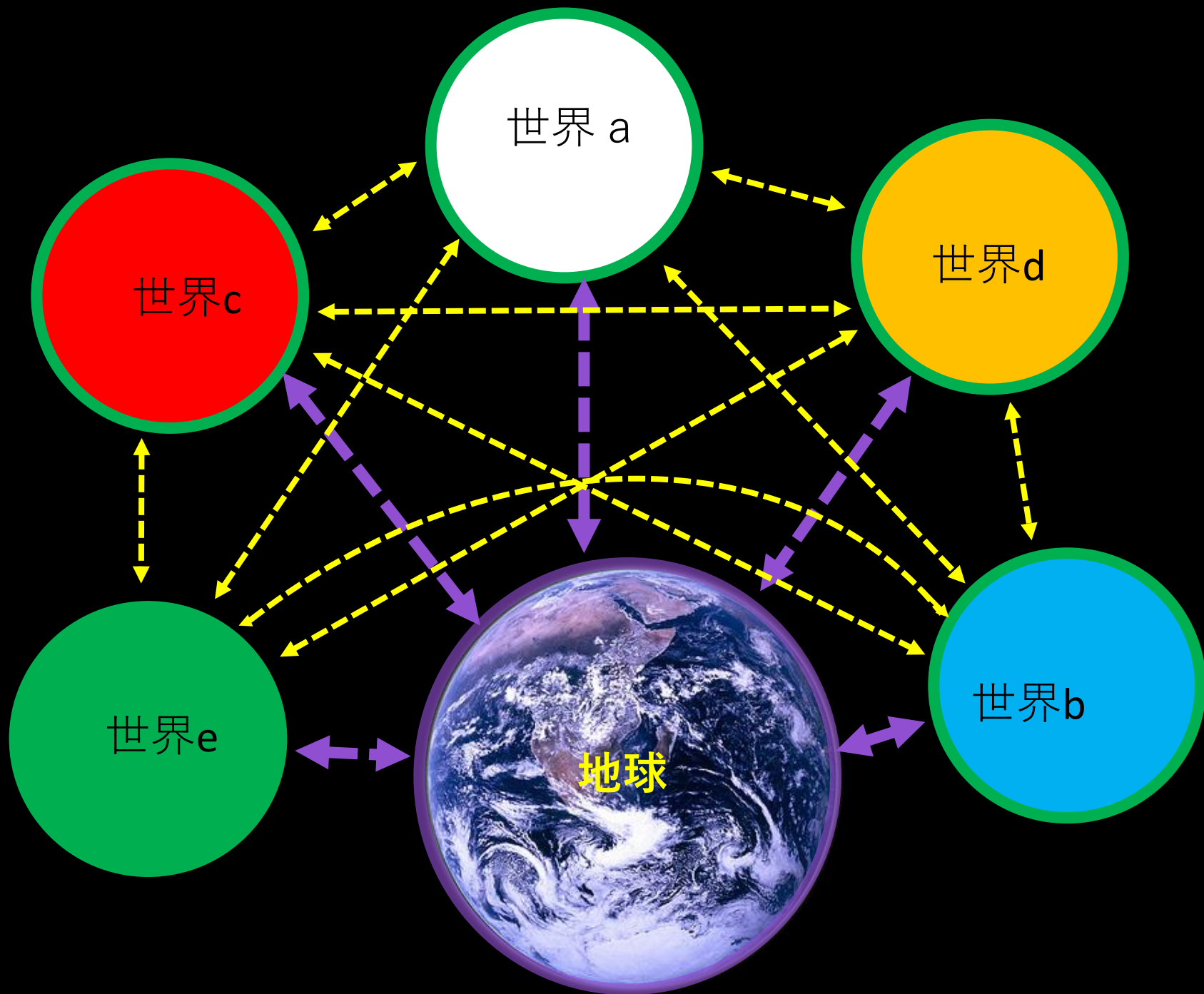
地震
大陸移動



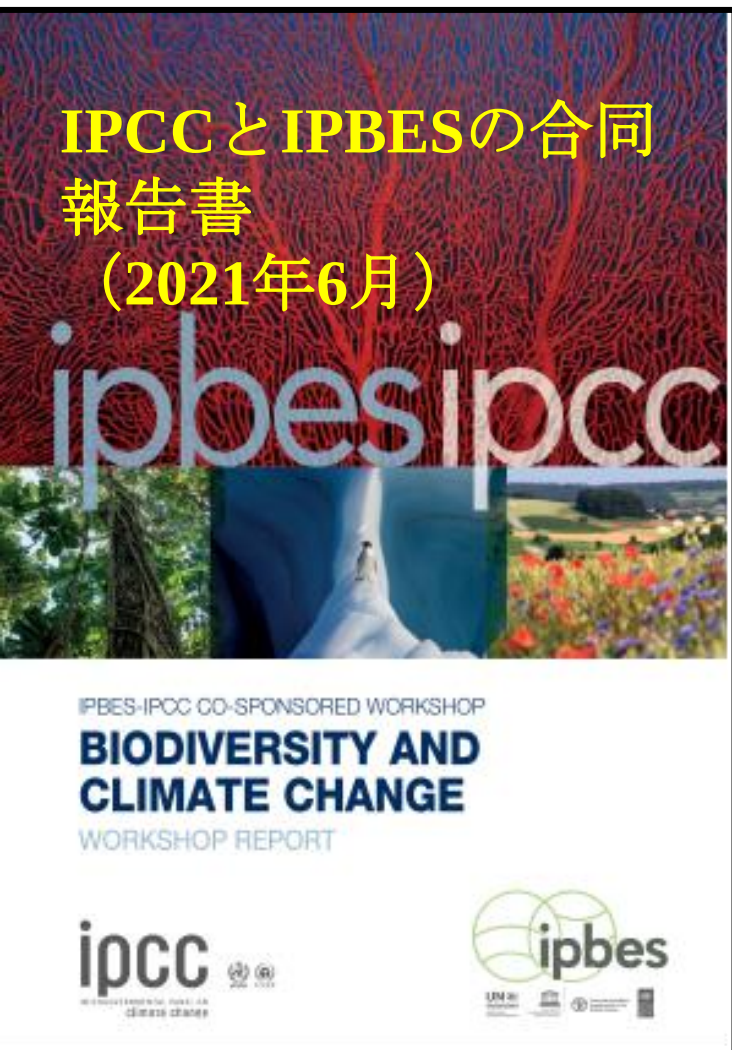
地球

人類を「地球に降り立たせる
(Down to earth)」
ブルーノ・ラトウール

「テレストリアル」(生命圏・地上・クリティカルゾーン・地球)への再依存



4. 気候と生物多様性の多重危機



地球温暖化制御と生物多様性保護は相互依存し同時達成必要

- ・気候変動の制御に失敗 → 地球上の生態系と人類の社会生態系はより劣化
- ・気候変動への適用能力
→ 陸と海での気候緩和・適応 + 生物多様性保全の両面戦略

NbS、グリーンインフラ推進推奨

→ 30by30、ネイチャーポジティブ

- ・気候変動緩和・適応の単独対策による自然への悪影響を心配

→ むやみなバイオエネルギー開発、気候工学的対策、メガソーラー開発への警鐘？ 原発推進への警鐘？

→ 技術革新とグリーン経済主導の「新気候体制」への警告？

- ★ 小規模で局所的な対策の積み重ね、地域を基盤とした複合的な対策を推奨し、食生活の見直し、食料廃棄物の削減等のライフスタイル変革
- ★ 人間の自然への働きかけの変革が共通の解決策

ネイチャー・ポジティブは可能か？ 本当にできるのか？ 贅沢な建築を作っている場合か

生物多様性の指標

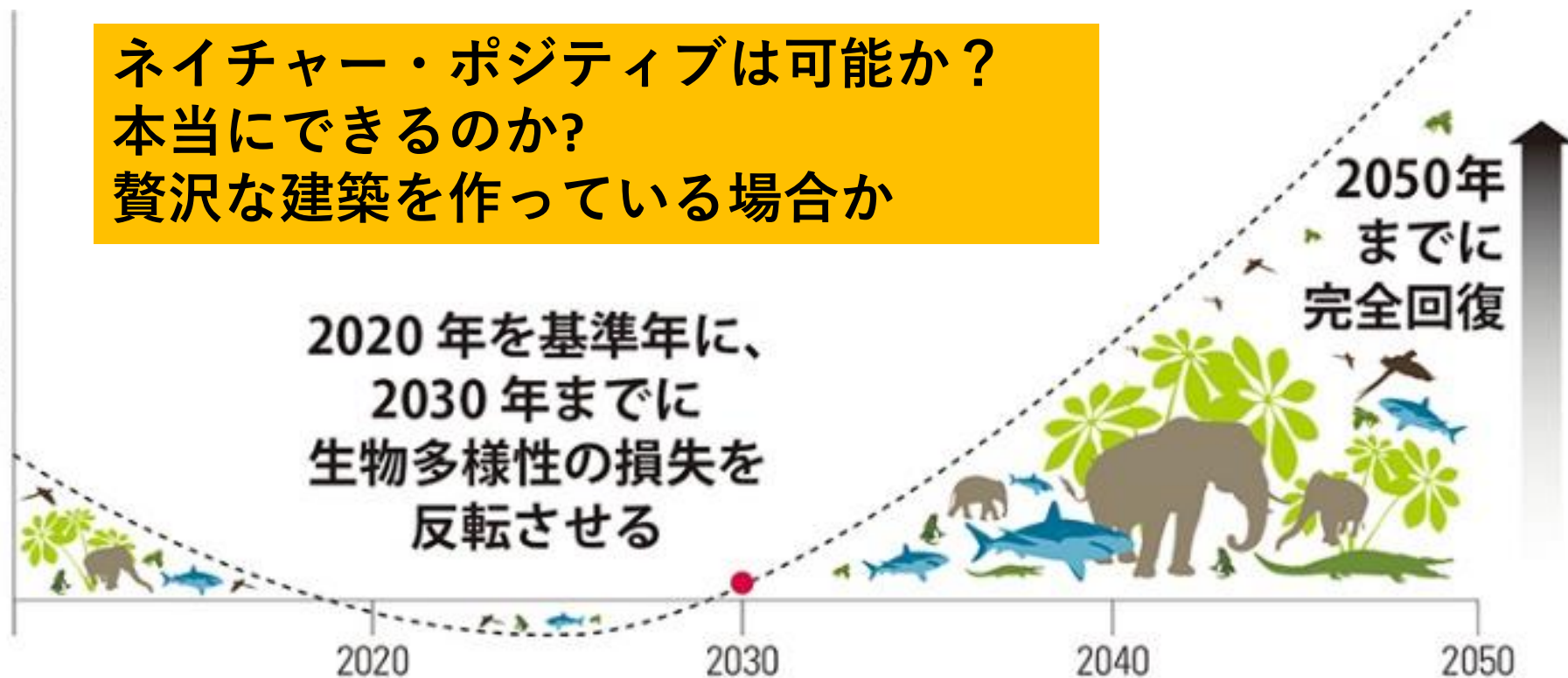


図 7 2030 年までのネイチャー・ポジティブに向けた自然のための測定可能な世界目標

出典：Locke et al., 2021¹²

2030年へのネイチャー・ポジティブの世界目標

(<https://www.wwf.or.jp/activities/lib/5153.html>より引用)

→自然征服を目指した西洋近代科学・技術を反省し、
西洋文化以外の地域での伝統的な知恵、多元的な価値観を組み込んだ
ものにしていくことが必要である。

- ・資本主義システムがもたらしてきた社会生態系ガバナンスにメスを
- ・社会経済システム、ガバナンス・政治の変革をより強める必要

6. 人為が産み出したハイパーオブジェクト と向き合いつづける責任と覚悟

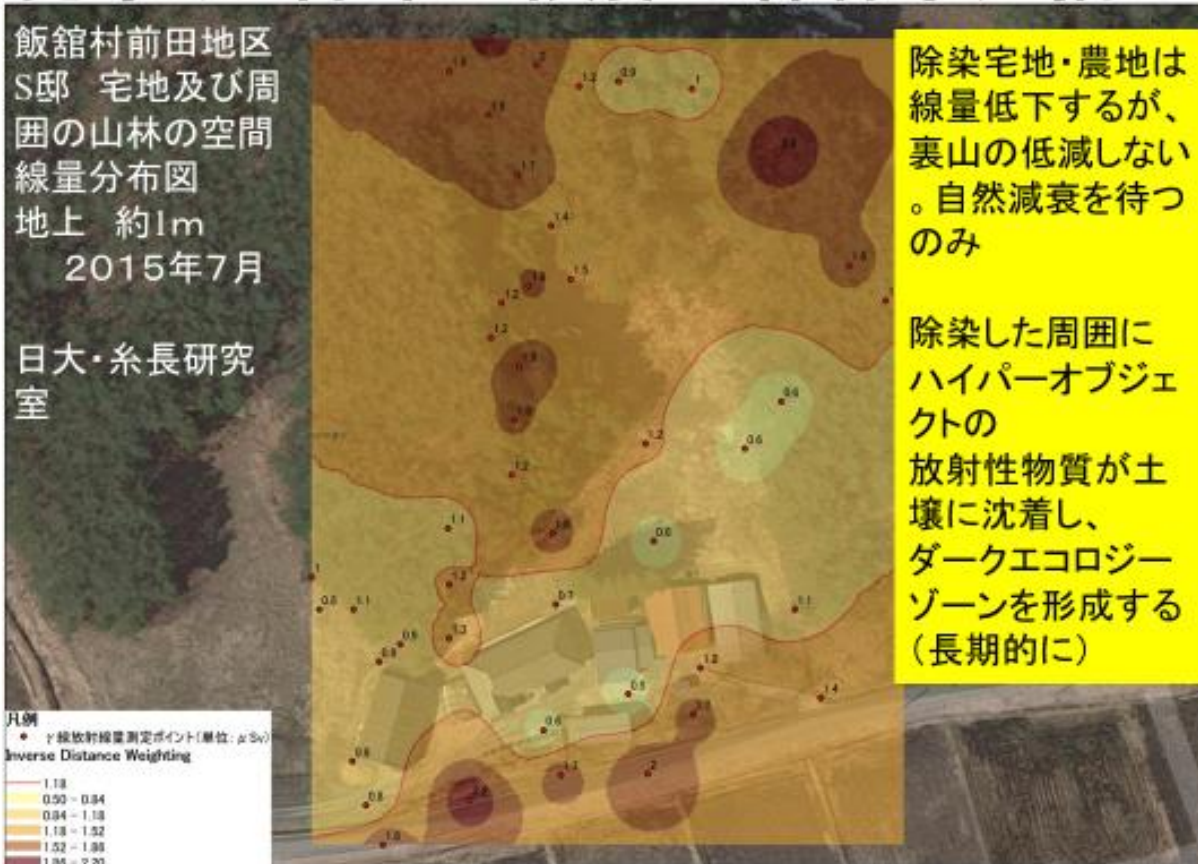
ハイパーオブジェクトの放射能汚染
Cs-137の半減期30年→200年で1/100

原発事故 除染の限界→森林永久捨て場



飯舘村前田地区
S邸 宅地及び周
囲の山林の空間
線量分布図
地上 約1m
2015年7月

日大・系長研究
室



森林土壌
10000Bq/kg

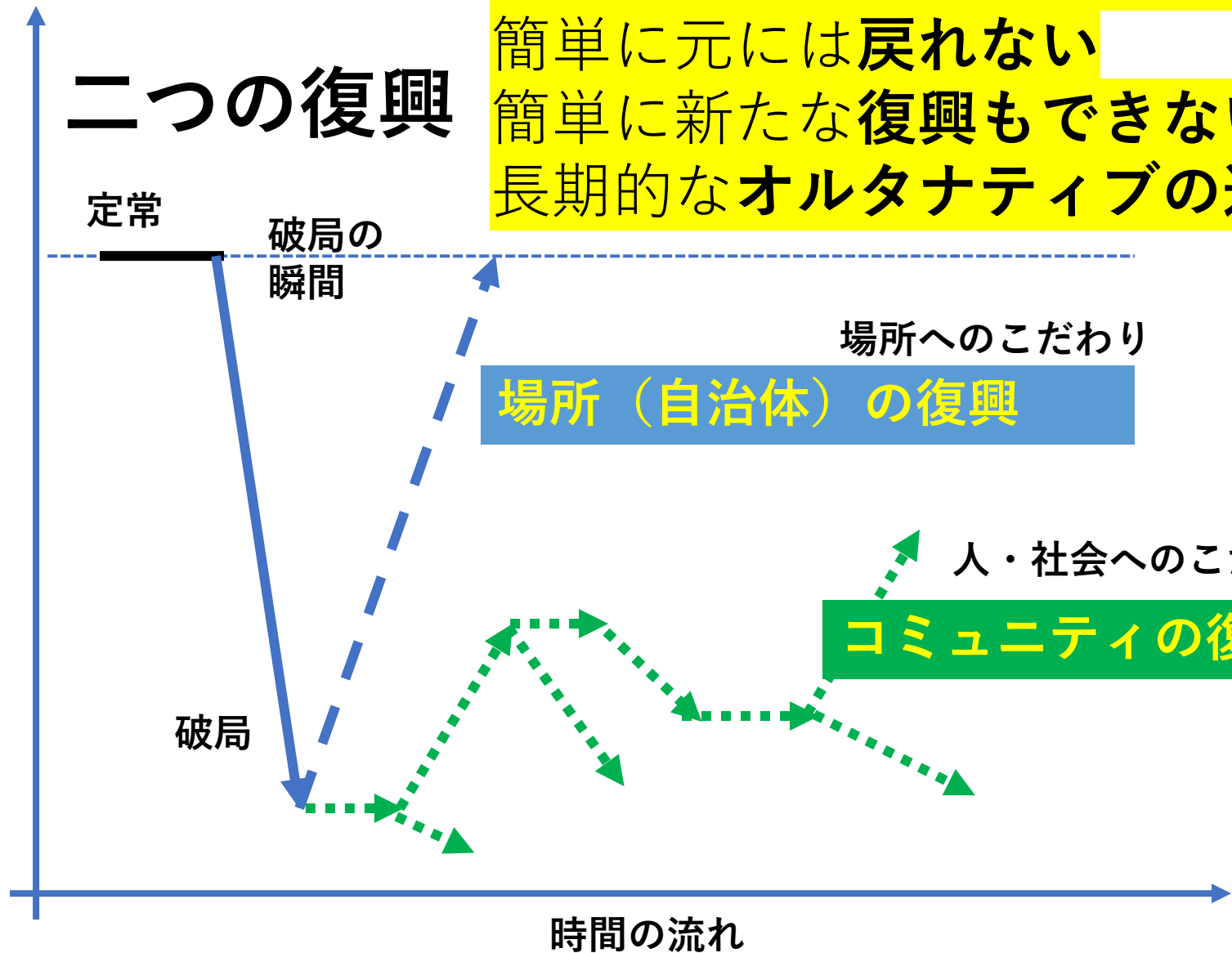
200年で

100Bq/kg
(クリアランス
レベル)

二つの復興

放射能汚染の**継続**（森も海も）
簡単に元には**戻れない**
簡単に新たな**復興**もできない
長期的な**オルタナティブ**の選択

定常・破局・復興の度合



200年の復興・再生デザイン

1977年から約14年
で485億円で水銀ヘ
ドロ151万m³を埋
め立。58ha
エコパーク水俣
(1990年)

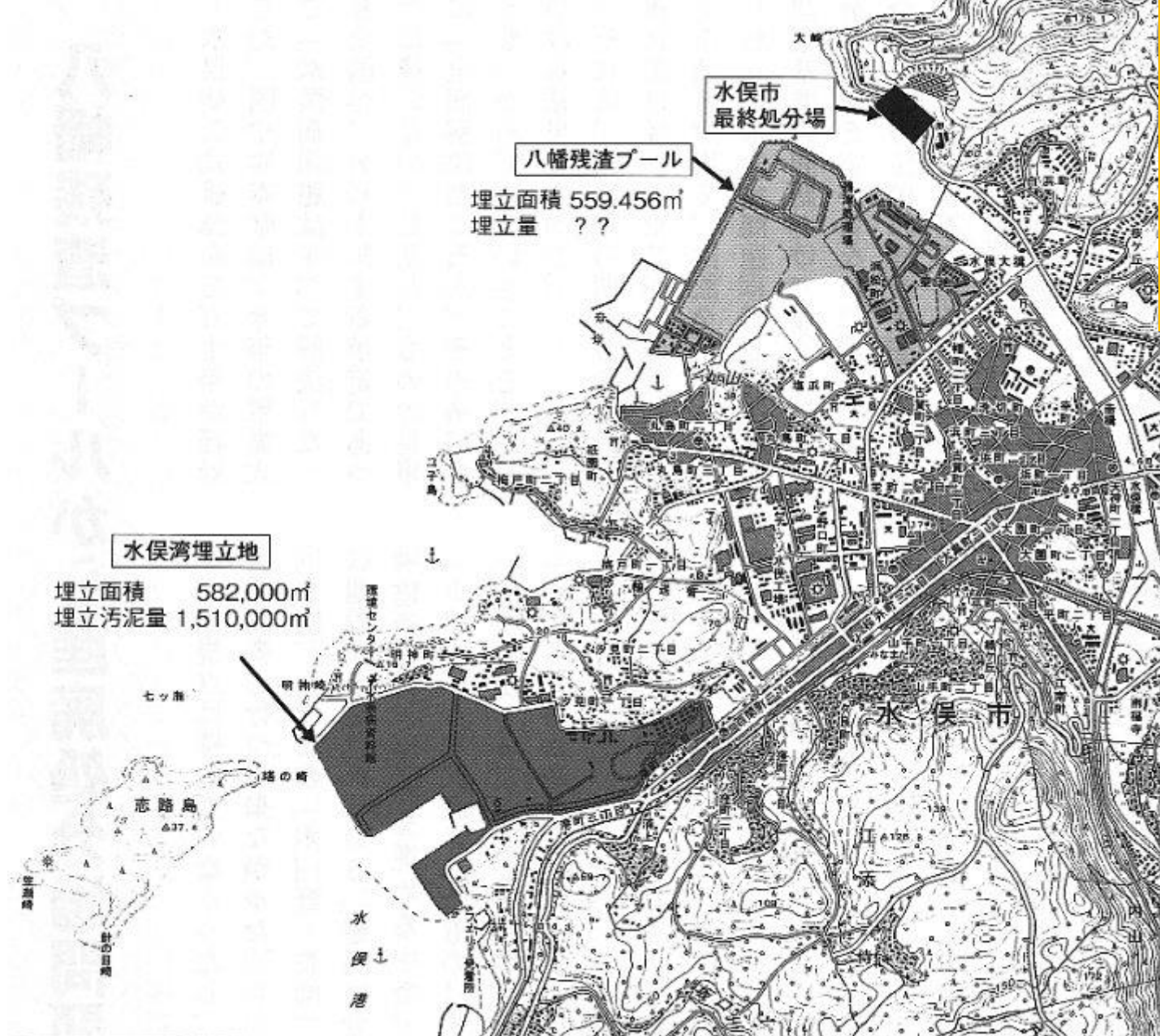
綱矢板セル式護岸
直径 23~30m
工事費 485 億
耐久年 約50年

1990年 + 50年
= 2040年

水銀に半減期無し

未来永劫管理必要

**毒で海を
埋めた**



『季刊 魂うつれ 2006/10月 第27号』 山下善寛氏 (本願の会)
「八幡残渣プールから産廃処分場問題を考える」より

《日奈久断層帯（八代海区間）》

地震の規模 : M7.3程度

(M 7. 7～8. 0程度 (日奈久断層帯全体が同時に活動する場合) /

M 7. 8～8. 2 程度（日奈久断層帯全体と布田川断層帯布田川区間とが同時に活動する場合））

地震発生確率： **30年以内に、ほぼ0%～16%**
(地震発生確率値の留意点)

地震後經過率： 0.1 ~ 1.6

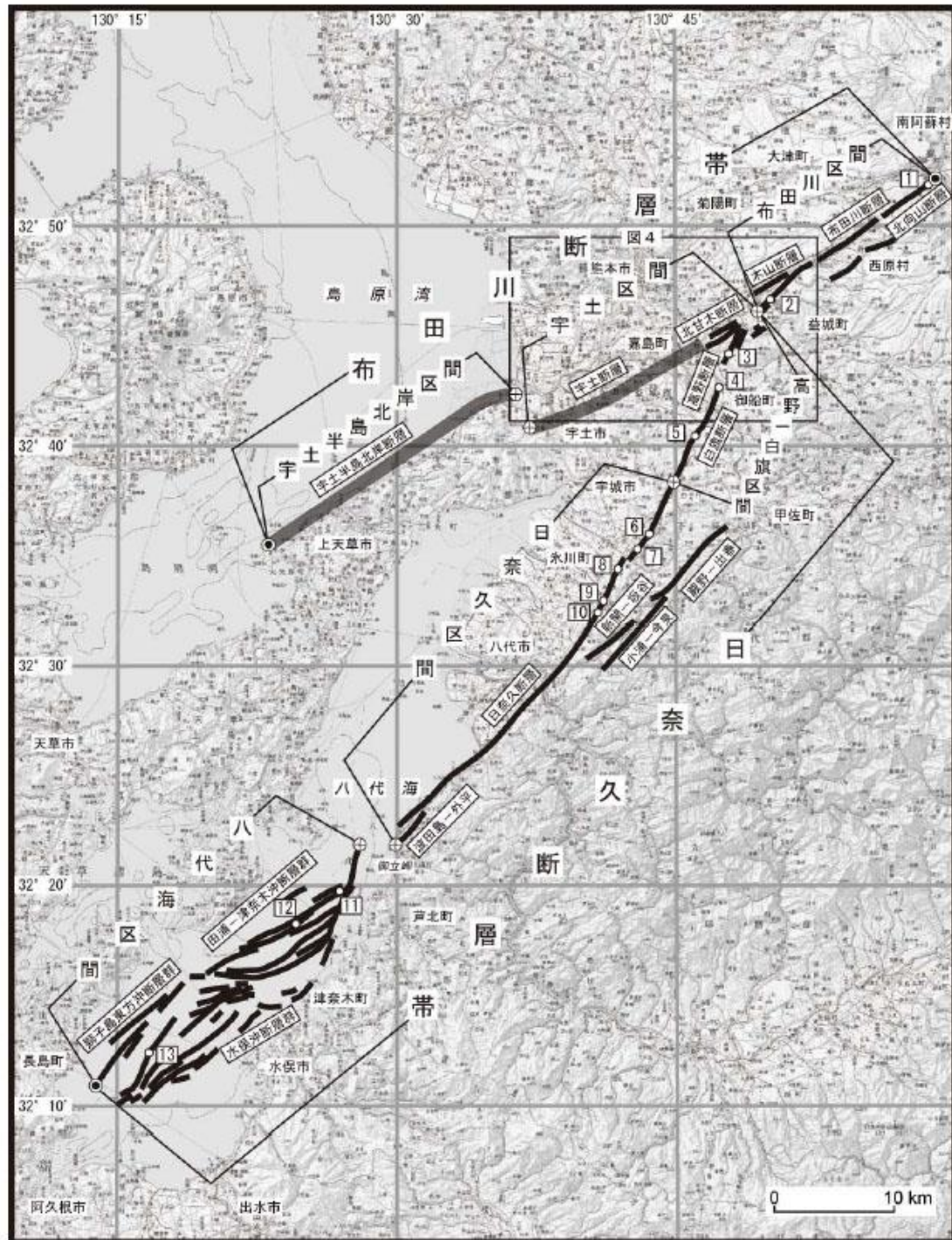
(地震後経過率とは？)

平均活動間隔：

1100年～6400年程度

最新活動時期： 約1700年前以後、900年前以前（744年（天平16年）肥後の地震の可能性がある）

https://www.static.jishin.go.jp/resource/regional_seismicity/katsudanso/f093_ichi.jpg



地球のダークエコロジー化と対応

- ・人が創造、拡大させたもの（**化学物質（有機水銀）、核物質、ウイルス**）は、人間にとって安定的で**おとなしい存在ではない**
 - 放射性物質や新型コロナウイルス、異常気象・・・
 - ハイパーオブジェクトとして人類に危害を及ぼす存在
- =地球はダークエコロジー化しつつある（人新世）**

原発事故後 1 2 年→汚染ダークゾーン（森林・海）は「非存在」という政策

- ★経済成長と気候非常事態対応を同時に進めることは、**環境破壊へのアクセルと保護へのブレーキを同時に踏む 矛盾**
- ★グリーンエコノミー戦略で環境と経済の好循環の夢は早晚破綻

→脱炭素社会をグリーンイノベーションで乗り切る
相変わらずの技術偏重、経済成長戦略一直線
→ **根本的な転換必至** **資本主義からの離脱**

←危機の主要因はグローバル経済成長、巨大な建築・都市・インフラ
→処方箋は**巨大建築・都市から離脱すること、近代都市像からの離脱**

- ★**この歪んだ人類の地球への関わり方、認識（科学）と技術の大転換が必至**
モダニズム経済・社会（政治）・環境（空間）・
二元論的デザイン及び哲学・精神からの離脱と新・真創造の道

7. プラネットアースは、「ポストヒューマン／人類絶滅」を許してはくれない

人間圏を肥大化させた近代科学技術

人間圏の肥大化→他の基礎的な圏の改変・破壊 = 人新世

巨大人間圏（西洋近代文明中心）は巨大技術圏で支えられている
→技術圏が人間圏、他の圏域を支配する

ピーター・K・ハフのテクノフィア（技術圏）

「人類が地球に生存しつづけるためにテクノフィアが不可欠」

技術圏 = 「インフラストラクチャー」

（ハード（建築・都市・農工業）・ソフト（社会制度））

人類絶滅 = 技術圏の崩壊

→生物圏の崩壊・他の圏の変質・崩壊への対処の永続的責任

→地圏・水圏・大気圏・生物圏への甚大な影響

有機水銀（水俣）、核物質等を縮小・根絶する義務

→人類は絶滅は許されず、他の惑星に逃げることは許されない。

人新世は技術圏が地圏・生物圏・その他圏の支配者となっている時代

技術圏は、ハードな**インフラストラクチャー**と、ソフトな**社会・経済システム**から構築される。

いわゆる**社会的共通資本**（宇沢弘文）は、技術圏の生産した資本である。
この**資本の維持、適正な管理は人類の責任**となる。

→ **社会的共通資本というやっかいなコモンズを人類が生産したという責任が永久に付きまとう。**

技術圏で**産業動物（工場家畜）**が大量に生産され、生かし殺すための大量なエネルギーの使用。

技術圏を維持するための大量に資源とエネルギーが地球から収奪されて、地圏・水圏・大気圏・生物圏の改変。

技術圏から**廃棄されるものは自然のエコシステムでは処理できず、永続的に残存し、影響を及ぼしつづける。**

人類の絶滅は技術圏の崩壊であり、長期的に他の圏域に甚大な被害を及ぼす。
これを避ける責任がプラットアースの覇権者としての**人類の責任**としてある。
プラネットアースは、人類の滅亡を許してはくれない。

→ **この技術圏からの離脱ではなく、改変・変態を行う必要がある。**

それは、西洋文明智ではない、別の多元的な文明智（感性）の登場が必要

8. 技術圏に深く関係する建築学（技術学）の責任と覚悟

磯崎新が提示した「焼け跡の直観」や「瓦礫都市」、「孵化過程」
よみがえりのような、一種の悲哀・居直り・楽観論の都市像も許されない。

都市の崩壊 → 数多くの「人工毒」の残存 → 惑星地球上の非生存性
製造物責任者の現代人の責任、未来人への委託は無責任
原発事故による放射能汚染、デブリの処理の困難性

意味ある生を人間以外のものとともに果たせる
新たな人間圏・技術圏の構築のための理念と手法

人間圏と生物圏の伴侶関係の空間をどうデザインする
生物圏伴侶空間をどう構築するか
人新世を乗り越える都市づくりのデザイン

絶滅することも許されない人間は、この惑星地球にどういう
世界を人間以外のものとともに作り直しつつけるのか。
伴侶空間の既存モデル＝植物との持続共生空間・里山空間
アグロフォーレスト（アマゾニア）

10. 地域からの自立共生・自給による真っ当な対処

★1990年代からの私の研究史

パーマカルチャー（永続的な農をベースとした生活環境統合デザイン）

環境市民のDIYによる食・建築・コミュニティづくりの国際的研究

★食物の栽培、輸送、調理、廃棄の食料システムは世界全体の温室効果ガス排出量の約3分の1を占る。→ 食料生産から消費の地域鎖国的循環への転換

★エコビレッジ

（自給自足循環型ライフスタイルを求めるコミュニティづくり）

★トランジションタウン運動

2000年ころからパーマカルチャーの理念から出発し、地域のレジリエンス力向上、エネルギー・建築・食を地産地消する市民と行政の自立共生運動、
「トランジションタウン」運動が英国から世界に波及

★イバンイリーチのコンヴィヴィアル（自立共生）

★ミュニシパリズム（地方自治主義）運動

公共圏（水・食料・エネルギー等）を地域市民や地方自治体を取り戻す
ミュニシパリズム（地方自治主義）運動もスペイン等で盛ん

★ラトーシュらの脱経済成長による再ローカリゼーション、社会連帯経済、

ワーカーズコープや労働者協同組合(2020年に日本でも法制化された)

★グローバル経済からの地域経済社会の防衛、

+ 新たな地域社会経済の創造を市民の政治判断で実施

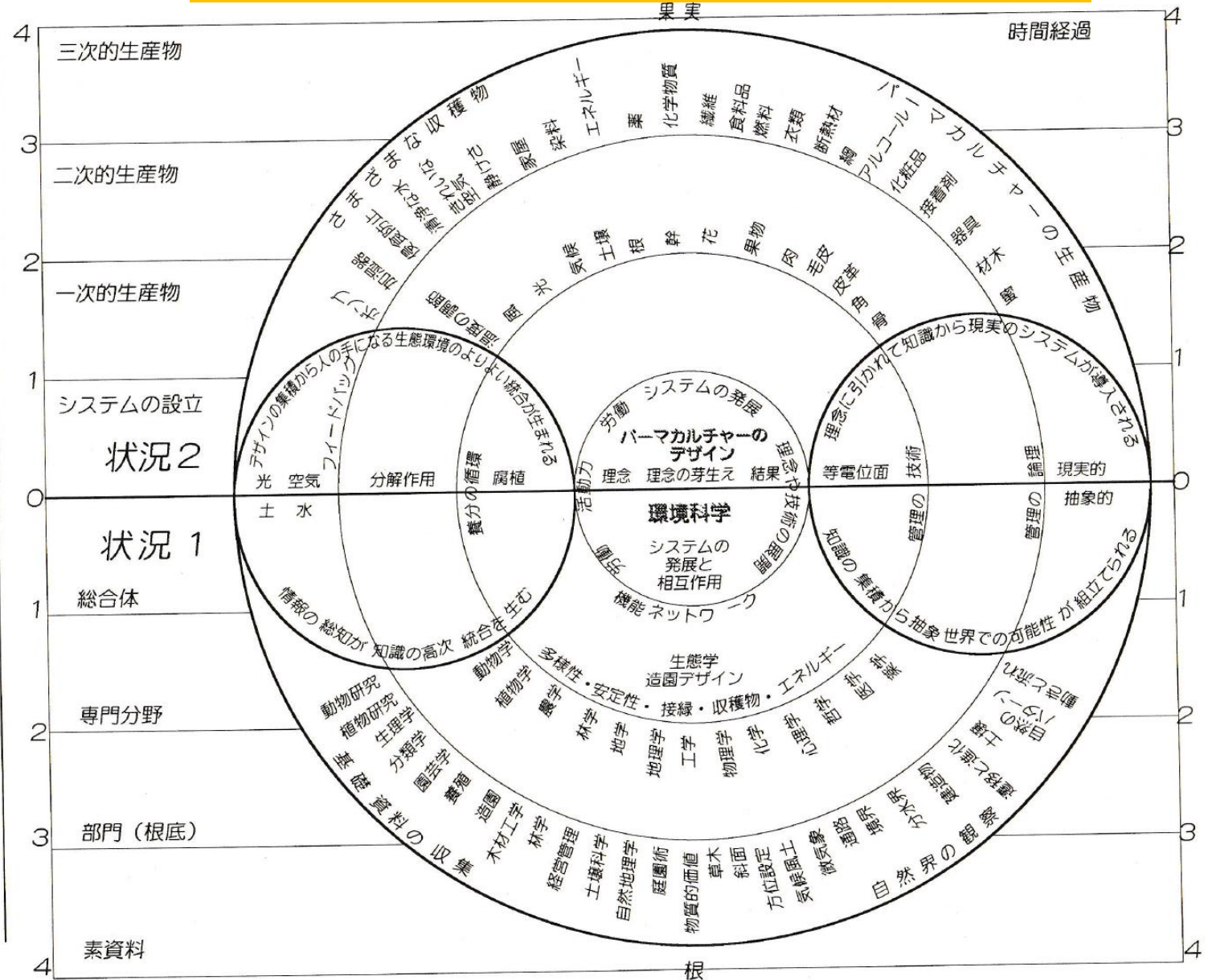
■巨大資本からの離脱による建築・まちづくりへの転換・変身

■人間と人間以外のもののサバイバルのための理念とデザイン

『パーマカルチャー』
(ビルモリソン、農文協)

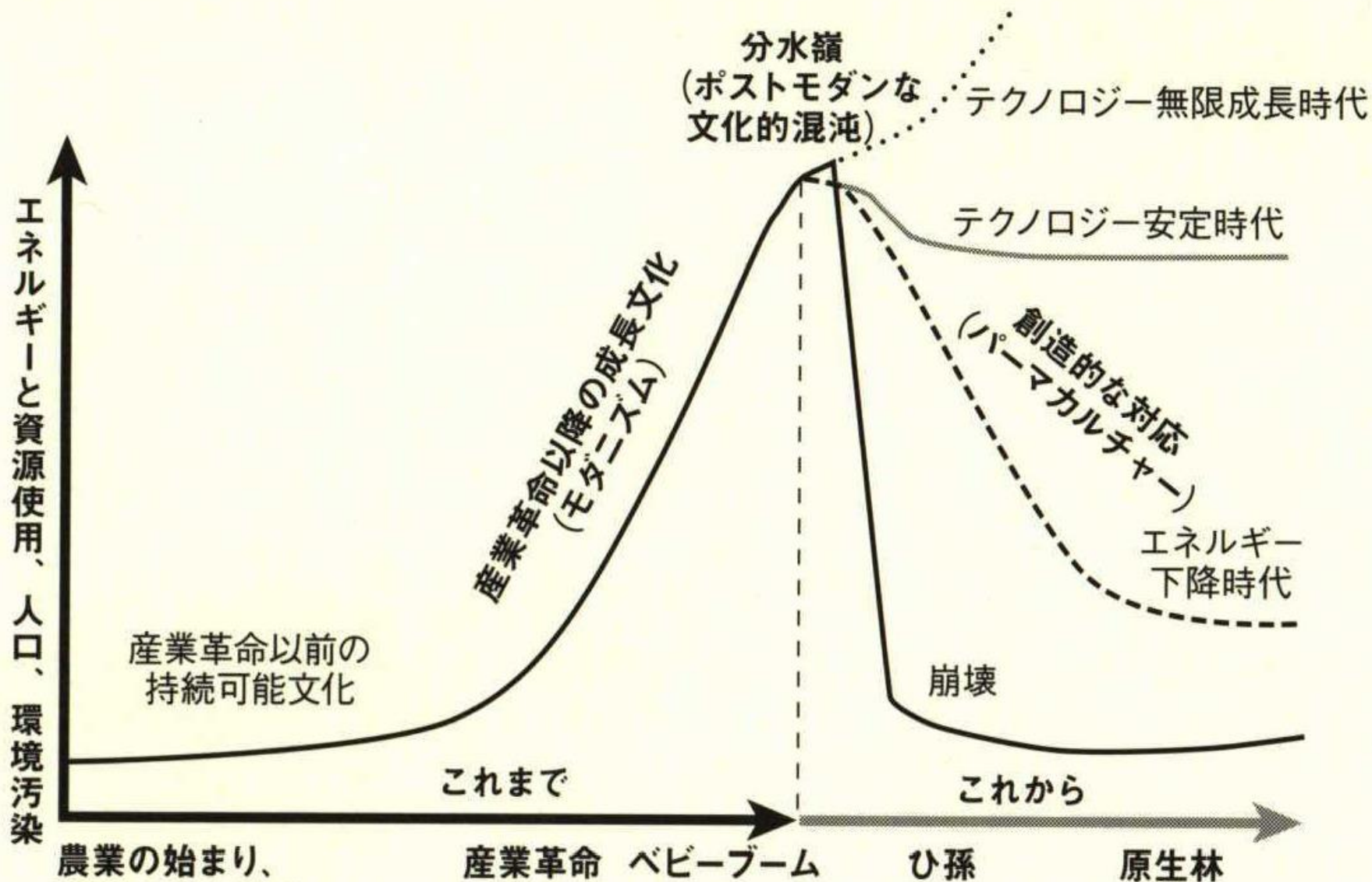
パーマカルチャーの限界 → 西洋知の統合・総合化という限界

パーマカルチャーの木
知識から生産物への流れ。パーマカルチャーも、木と同様、全体論的システムであり、各種専門分野の知識の統合体から収穫物・生産物へと還元されていく。理念と周囲の環境状況から当然こういう図式になるとも言いきれまいが、ともかく、根から果実に至る道筋と可能性は無限にある。すべては互いにつながっている。



(図3)

●エネルギーの将来、4つの可能性



デビッド『future scenario、未来のシナリオ』より 2009
日本語版 序文 糸長浩司

●地球規模の気候変動とエネルギー下降時代の4つのシナリオ
(図18)

ブラウンテク



急激な地球温暖化

救命艇



ゆるやかな原油の減少



著しい原油の減少

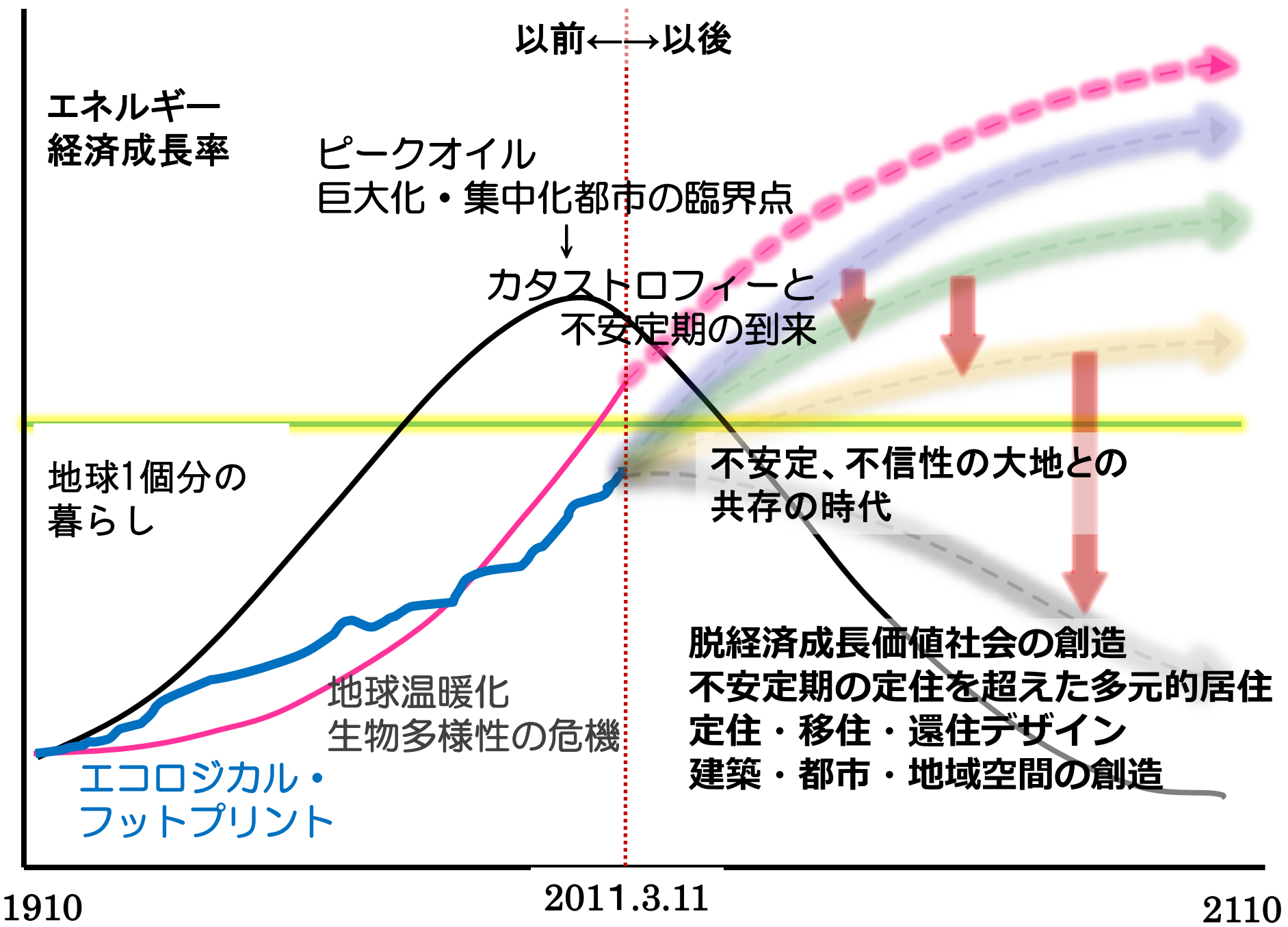


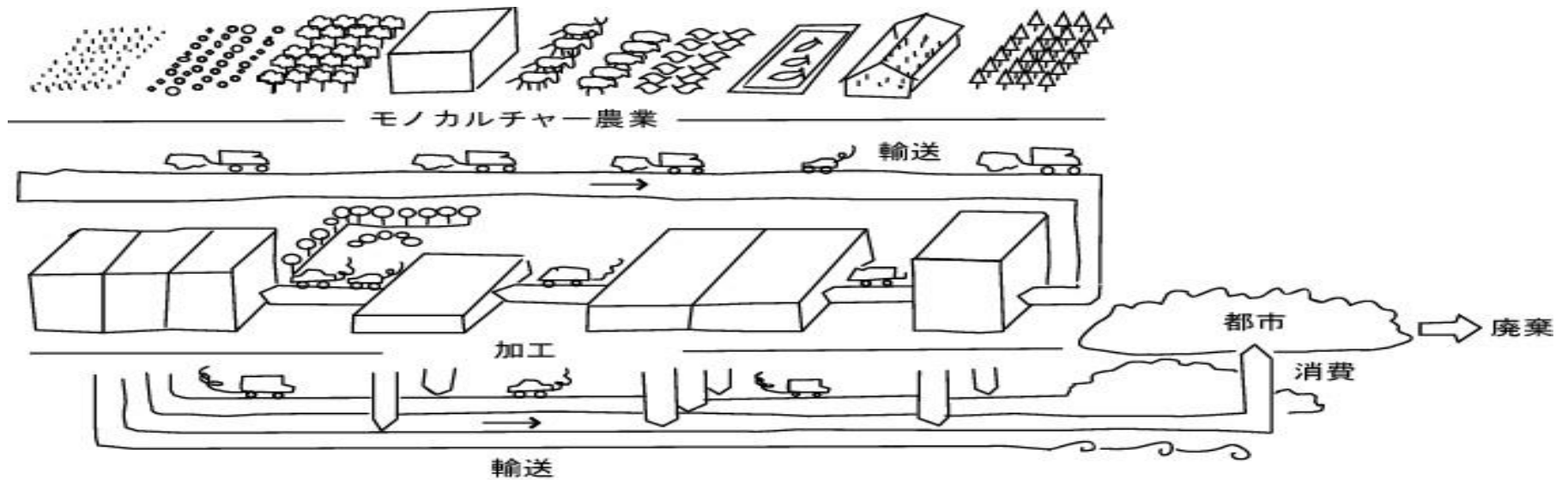
おだやかな地球温暖化

グリーンテク

地球の世話人

デビッド『future scenario、未来のシナリオ』より
2009 日本語版 序文 糸長浩司





近代モノカルチャー・分業システム → 場での統合システム



エディブルランドスケープの創造



★「人新世統合学」＝西洋知OnlyOneの統合学では失敗する。

人新世時代(地球惑星の総合的状況を区切るという西洋的近代価値観による区分として)における何を統合する学か。

例 パーマカルチャー(西洋的・ロゴスの価値観の限界)



自然真営道・万人直耕(安藤昌益)、自然世(実在)

ロゴスに対するレンマ的論理(全体的直観的把握)、山内得立、木岡伸夫
大乘仏教直観／龍樹の四句分別／「不生不滅」「不一不異」／縁起・中論
→二重否定から二重肯定の第三レンマ

古代ギリシア・ローマ哲学はロゴスによる統合学
(実証性は弱い。生命論、自然論は希薄、思弁そのもの、
実在からの分離、実在は奴隷)。

→西洋のロゴスによる知の分化・細分化の近代 →ロゴスによる再統合の限界
人が生きるための知識ではなく、
智慧を習得するための手段としての統合学では限界。

→第三レンマによる新統合／容中律／人と人、人と自然の＜あいだ＞の回復
矛盾対立の環境概念→不一不異の風土概念への転換

・近年のティム・インゴルドらの人類学は人新世時代の統合学か

・マルチスピーシーズ人類学(奥野克己等)

・西洋知モデルの退場、新たな主役として非西洋智・観の登場

11. 非二元的デザインの可能性／西洋モデルの廃棄→多元モデルへ

『多元的世界に向けたデザイン』 Designs for the Pluriverse

アルトゥロ・エスコバル 2018

「現代の危機とは、家父長制の西洋資本主義近代という文明モデルの危機である。」

啓蒙主義で歪められ・誤謬だけの人類史からの脱皮する時だ

→別の文明モデルの構築が急務であり、出来る未来を信じる

世界にある／あった別の文明モデルをつくれる人類→新多元的モデル

ラテンアメリカの先住民・黒人・小農、

トランジョン、自治＝自律（オートノミー）の共同的な形態、

自由・平等・博愛の気づきのアメリカ先住民、「国家なき社会」→『万物の黎明』

コンヴィヴィアル（自立共生）、イバンイリーチ

存在論的デザイン

Disonar = Disenar(デザインする)+ Sonar（夢見る）

（デザインを夢に埋め込む／直観による創造）

「Defuturing（脱あるいは反未来）」 トニー・フライ

デフューチャリングな近代都市（セトルメント）

→ 多元的なセトルメントの創造の必要性 （近代都市とは異なる都市モデル）

バナキュラー建築の実践の刷新

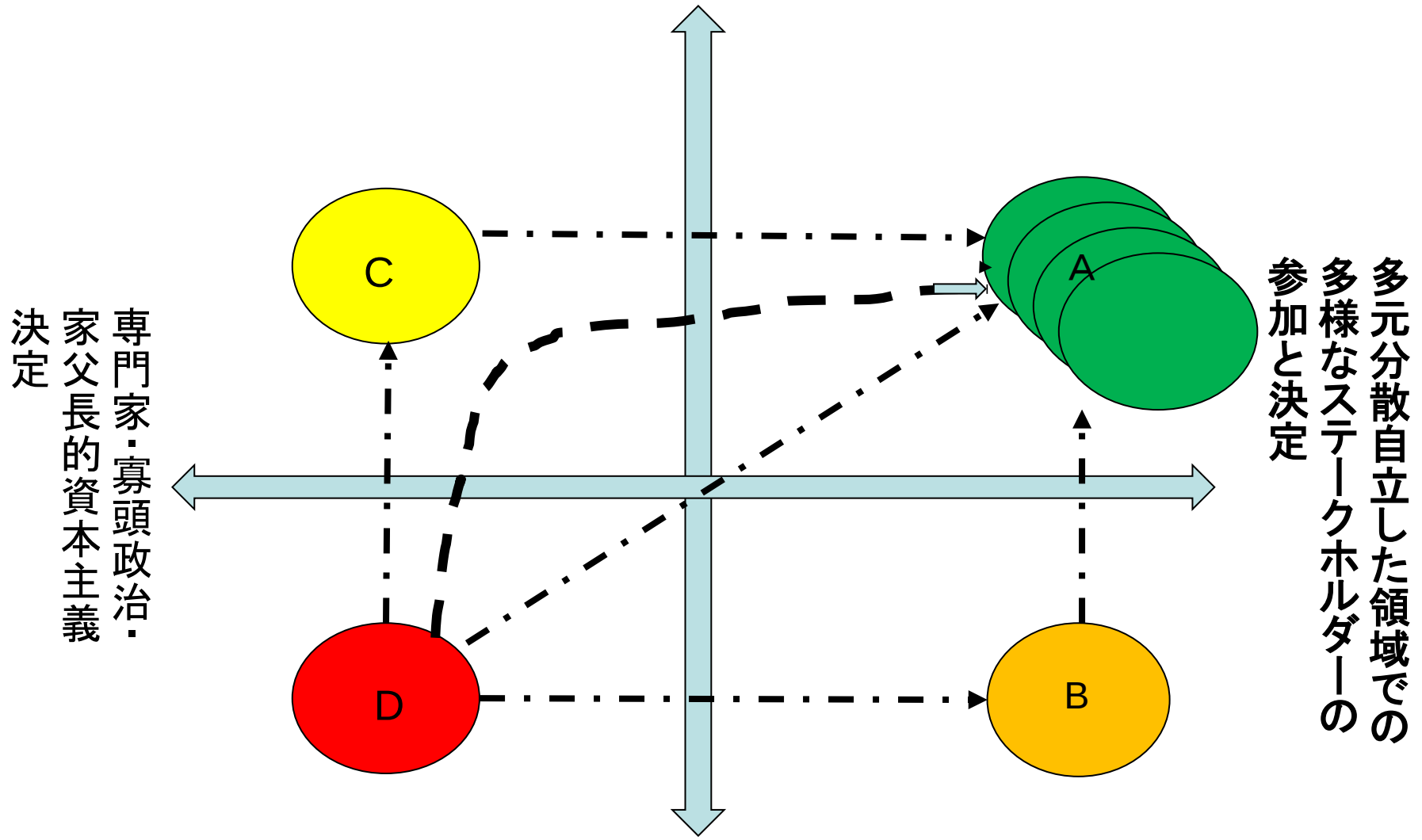
非二元論的かつ関係的な生活形式＝非二元論的なデザインの可能性

★今までの主流な世界の作り方が間違い、破滅する前に、

別の多様な世界を作ることができる。かつての多様な世界を再評価。

西洋的人類史（社会進化論）見直し（『万物の黎明』（2人のデヴィッド著））

多元的重層的バイオリージョン(ローカル)
での多元的な価値・文明による社会・経済・環境・政治の再創成



グローバルな一つの世界＝ワンワールドによる
社会・経済・環境・政治への一元価値によるコントロールの強化

12. 災害を好機と捉えた多元的再生復興

／近代復興モデルからの離脱

人新世危機・破局・破滅＝甚大災害は必至イベント

＝近代モデル(都市、(一部農村))の破壊

＝2000年来の一元西洋モデルの多元的世界でのやり直し機会。

→

従来型復興＝近代モデルへの復旧、or 近代強靱化モデル創造
(創造的復興)



多元的再生復興＝近代モデルを超えた、個々の地域での生き残り、
個々の地域の維持のための復興モデルの構築

＝自律・自立分散型、地産地消型の復興デザインと長期アクション

＝地域への個性ある多元的な住み・棲み直し

石川県は手取川ダムを水源に、総延長約200キロに及ぶ水道を運営し、七尾市以南の9市4町に供給する。

<https://www.chunichi.co.jp/article/840075> 中日新聞 1/19

★生活に必要な水・食料・エネルギーの自立分散は必至である。

★復興は、単純に元の近代都市システムの戻すのではなく、レジリエントのある防災につながる自立分散型のエネルギー・食料・水・環境づくりを目指す。

